

## 放射科学教育研究推進センター

数  
学  
科物  
理  
学  
科化  
学  
科生  
物  
学  
科地  
球  
学  
科創  
造  
理  
学  
コ  
ー  
ス放  
射  
科  
学  
教  
育  
研  
究  
推  
進  
セ  
ン  
タ  
ー

R-1

## I . 放射科学教育研究推進センターについて



放射科学教育研究推進センターの前身である「放射化学研究施設」は「ビギニ海域における水爆実験による第五福竜丸の被災事件」を契機として昭和33年4月文理学部附属施設として設立されました。昭和43年8月に理学部とともに静岡市大谷地区に移転し、平成14年には実験施設の全面改修を行うとともに、平成20年に「放射科学研究施設」へ改称しました。理学部のみならず全学における放射能利用研究活動の中心としての役割を果たしてきましたが、東日本大震災を経験した今、社会が求めている研究課題への対応や更なる教育の充実化を図るため、平成29年2月に放射科学教育研究推進センターに改組しました。

## II . 研究・教育体制

時代のニーズに対応した教育研究を推進するために教育研究部に「エネルギー安全放射科学研究部門」と「同位体環境動態研究部門」の2つの研究部門を設置するとともに、放射線安全管理部を設置し、全学の放射線安全管理を行っています。

放射線教育においては、平成16年度から理学部各学科の協力の下に放射線取扱主任者免状取得に必要な国家試験合格を目指し、下表のような講義を開講し、これまでに100名以上の学生が合格しています。また、大学院では「放射科学教育プログラム」を設置し、理学専攻各コースにおける高い専門性ととも、「放射科学」の幅広い知識を併せ持つ人材の養成に努めています。平成28年度からは原子力規制人材育成事業にも採択されています。



静岡新聞に最近の取り組みが紹介されました。

## 理学部における主な放射科学関連教育科目

授業科目	単位数
放射線物理学概論	2
放射化学概論	2
放射線生物学概論	2
放射線計測・管理学概論	2
放射線管理実習	1
放射線障害防止法	単位認定なし
放射化学I	2
放射化学II	2

総合科学技術研究科理学専攻における  
主な放射科学教育プログラム関連科目

授業科目	単位数
放射線測定・解析特論	1
放射能利用分析特論	1
先進エネルギー化学特論	2
先進放射化学特論	2
放射線管理学特別実習	1
放射科学特別講義	1

## Ⅲ. スタッフの概要

### 教育研究部

#### エネルギー安全放射科学研究部門

大矢恭久 (Oya, Yasuhisa)

トリチウム等ベータ放射体と材料との化学的相互作用の速度論的メカニズム解明研究および核エネルギーシステムへの応用

近田拓末 (Chikada, Takumi)

先進エネルギーシステムにおける材料化学研究

#### 同位体環境動態研究部門

矢永誠人 (Yanaga, Makoto)

環境中における放射性核種の挙動および原子核をプローブとした生体内における微量金属の機能に関する研究

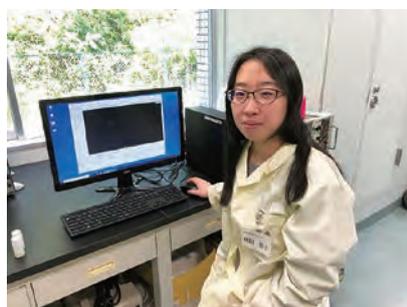
#### 放射線安全管理部

鶴田泰明 (Tsuruta, Yasuaki)、山口三枝子 (Yamaguchi, Mieko)

宮澤俊義 (Miyazawa, Toshiyoshi)



平成 29 年 8 月に特色ある放射線安全管理の取り組みが認められ、第一回森川記念賞を受賞しました。



## 在校生からのメッセージ

総合科学技術研究科理学専攻 1 年 仲田萌子

人類は消費エネルギーの増加により、地球温暖化や化石燃料の枯渇などの問題に直面しています。さらに、原子力発電は資源の乏しい日本においてエネルギー自給率を増加させる手段である一方、東日本大震災時の福島第一原子力発電所の事故や環境汚染により、その安全性が疑問視されてきました。そこで、原子力発電に代わる安全でクリーンなエネルギーの一つである核融合発電が注目されています。核融合発電は、海水中に多量に存在する水素同位体とリチウムを燃料として用いるため、資源の枯渇を心配する必要無く安定して長時間利用することができ、地球温暖化を促進すると考えられている二酸化炭素を排出しないので環境負荷も小さいと考えられます。私達は次世代のエネルギー源である核融合炉の実現に向けて、核融合炉材料中の水素同位体の挙動について化学的または物理的な視点から研究を行っています。最先端の研究、持続可能なエネルギーの開発に興味の有る方は、ぜひ放射科学教育推進センターにお越し下さい。

## 卒業生近況

中部電力株式会社浜岡原子力発電所 プラント運営部 放射線管理課

小野寺祥子 (2010 年理学研究科化学専攻修了)

私の仕事は、発電所周辺の方々の安全を確保し、環境の保全を図るために、周辺環境の放射能調査を行うことです。空間放射線量と、環境試料中の放射能の測定を行い、測定結果は地域の皆さまにお知らせしています。皆さまの関心が高いために、測定結果の信頼性を確保し、正確な値をお知らせできるよう、常に緊張感を持って業務に取り組んでいます。調査を行うことで、発電所周辺の方々の安心につながっていることにやりがいを感じます。

